追悼　等學院釈裕文　八十木 裕幸 先生

小笠原　隆　元

（英語）

平成14年暮より全く不慮の病いとの闘病生活10ヶ月あまり、薬石効を奏さず忽然と去る９月23日に逝去された八十木裕幸先生の胸中を思い、謹んで哀悼の意を表します。

思えば昭和36年頃、今から40年以上も昔、駒大の構内で私は先生とすれちがっていたかと思います。当時は学生数も総数三千人弱だったと思うが、私が学部卒業の年、北海道より勇躍上京されて本学に入学された先生とのまだ直接には見えない縁がはじまった事でした。

時移ること30数年後の平成４年６月頃より八十木先生と今年まで親しく面識を得て、共に一研六階の研究室で夜10時、11時過ぎまで時折語り合うことが出来ました事を先生に感謝する次第です。平成４年６月、教職員組合の執行委員会に北海道より白髪温顔の八十木先生と若さあふれる岩永先生が遠路出席され、委員会で互選、年齢順などで不肖私と八十木先生が正副委員長の任を受けて平成５年10月まで共に精進して微力をつくした事が先生との好因縁でした。当時、北海道問題が学内でも重大関心事であり、表裏の事情に精通していた八十木・岩永両先生の存在感は誠に大きなものでした。私達が正副委員長の期間中に、諸般の事情のしからしむる所、駒大同窓の大先輩である二人の学長が相次いで退任される事態となった事は予想も出来なかった事であり、同窓の後輩でもある私達二人にとっては誠に遺憾なことでもありました。

その後、数年にして北海道より八十木先生ははじめ諸先生方と、職員の皆様方が本校に合流する事が決定され、平成11年春より八十木先生は我々外国語部第一群の一員となられて御尽力賜りました。正に世は諸行無常、先にあの若さあふれた岩永先生に続き、還暦を迎えて二年目となる白髪温顔な八十木先生までも

黄泉の旅にのぼられてしまうとは、誠に残念至極であります。八十木先生の39年余りにわたる教育研究指導への献身と御尽力に対し深く感謝申し上げるのみであります。また特にこの10数年間の愚生に対する御指導、友情、交誼に対して重ねて御礼を申し上げます。

願わくは、八十木先生の御心がはるか浄土より残された私達の上に示されて訓戒の警策を与えて下さらん事を念じつつ。　　謹んで合掌九拝